

## VII 各学年の実践

### 1 1年1組の実践「たしざん」

#### (1) 本時のねらい 第6時(全12時間)

1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算において、被加数の方が加数より小さい場合の計算の仕方を考えることができる。

#### (2) 児童の変容

手だて1  
自力解決の場面

3 + 9の計算の仕方を考えるために、具体物(卵パックと卵)を操作することで、被加数を分解するよさに気付けるようにする。

児童は、本時までには、被加数の方が大きい繰り上がりのあるたし算を学習してきた。その際、具体物を操作しながら加数を分解する方法とそのよさを学習してきた。

本時は、被加数が加数より小さい計算の仕方を考える。そのため、本時でも具体物を操作しながら計算を行うことにより、被加数を分解するよさに気付かせることにした。



(具体物を操作する子どもたち)

#### 具体的な児童の姿

達成目標：グループで話し合いながら、具体物を操作している。



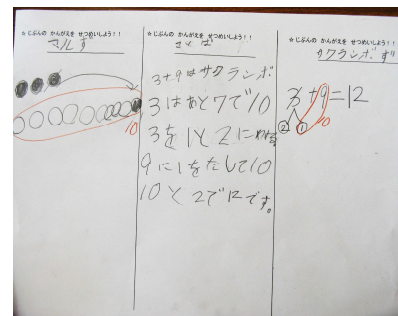
- ① 3個入りの卵パックから9個入りの卵パックに1個卵を移動している。
- ② 9個入りの卵パックから3個入りの卵パックに7個卵を移動している。

グループで「3個の方から1個動かすと10ができるね。」や「7を動かすより、1個動かした方が簡単だね。」と話し合いながら、具体物を動かすことができた。

手だて2  
交流する場面

グループで意見の交流をさせた後、全体での意見交流の場で、友達がかいたマル図やブロック、サクランボを使った式、言葉の説明をさせることで、自他の考えをわかりやすく表現できるようにする。

これまでの学習では、互いの考えを伝え合う活動を通して、ブロックを活用すれば自信をもって学習に取り組める児童が多いが、友達の発表を聞く際に、ブロックで遊んでしまう児童もいた。そのため、グループでの活動の場と全体での意見交流の場を設定することにした。まず、グループでの活動の場では、友達の解き方でよいものがあつたら、取り入れるように伝えた。さらに、全体での意見交流の場では、友達がかいたマル図やブロック、サクランボを使った式などの説明をさせる活動を設定した。これらにより、児童の集中力を持続させ、自他の考えをわかりやすく表現する力を育てることにした。



(ワークシートの様子)

### 具体的な児童の姿

達成目標：考えを黒板やホワイトボードに表し、友達の考えを分かりやすく説明している。

- ① マル図、言葉、ブロック、サクランボ図を使って考えを黒板やホワイトボードに表すことができた。（写真①）
- ② 友達の考えを自分の言葉で説明することができた。

（写真②）

（↓写真②）



（↑写真①）

全員が、ブロックとマル図を使って自分の考えを表すことができた。本実践では、あらかじめ3を2と1に分けることがはっきりしていたので、児童は自信をもって、式、図、言葉、ブロックなどを使って自分の考えを説明することができた。

### (3) 成果と課題(○成果 ●課題)

<手だて1>

- 具体物を操作したことによって、被加数と被加数に関係なく、小さい数を分解すればよいことに、気付くことができた。
- 教師が具体物を操作する活動の前に「9を7と2に分けるのは大変だね」と全体に声を掛けたため、初めから3に分けるグループが多かった。思考力を高めるためには、グループの話合いの中で、子どもたち自身から「3を分解するとよい」ということに気付けるとよかった。

<手だて2>

- 友達の考えを説明する活動を取り入れた結果、友達がかいたマル図やブロック、サクランボを使った式などをよく見て、自分の言葉で説明しようという意欲が高まった。また、実際にわかりやすく説明することができた。
- まとめる過程において、9に分けた考えが出なかった。そのため、計算の工夫として、「小さい数を分ける」という言葉が出てこなかった。